

第3回千早赤阪村外部評価委員会会議録（要旨）

日 時 平成26年10月7日（火） 午後1時～午後2時10分
場 所 くすのきホール 2階 第2会議室
出席者 澤井委員長、井関副委員長、岡委員、清水委員、道田委員
事務局 吉田副村長
松村理事
総務課：森田課長、日谷課長代理、中島主事
傍聴者 0名
会議概要 開会
1. 平成26年度外部評価報告書（案）について
2. その他
閉会

【議事要旨】

1. 平成26年度外部評価報告書（案）について

（澤井委員長）

報告書10頁7. 今後の課題と改善への提言及び要望について、各委員からご意見を申し上げます。

（井関委員）

全事業を内部評価していると聞いたが、外部評価の対象となる事業を外部評価委員で選定をするシステムがあってもよいのではと思う。特に内部評価でD、E評価（マイナスな評価）となっているものが、妥当な評価なのか外部評価委員会で検討できればと思う。

（事務局：森田課長）

まず担当課が評価を行うのですが、担当課では廃止等の評価をつけることはあまりなく、政策担当の評価も厳しく評価ができていないのが現状です。事務事業評価を3年間行い、廃止した事業もありますが、政策担当の評価も甘くなってしまうことがあります。

（澤井委員長）

外部評価にかける事業を外部の目で選定する機会があってもよいと思う。

（事務局：森田課長）

次回あたりで検討させていただきたいと思います。

（井関委員）

委員の追加ですが、あまり多いとまとまりにくいと思いますが、村内からもう1名増加していただいたら良いのではないかと思います。色々な意見もでるでしょうし。

(岡委員)

本年度は生活に密着した事業でしたので、評価しやすかったです。最後に申しますが、バスがなければ、歳をとってきたら、足を取られ大変だろうなという気がしますが、何らかの形で外に出られるようになれば良いなと思います。

(道田委員)

どの事業も選定は適切だったと思います。資料についても工夫されており、わかりやすかったです。職員の対応もよかったです。進め方は議論が脱線しそうになると澤井委員長が修正していただいたので、ありがとうございました。

できることならば縮小したいが、せざるを得ない現状があり、危惧しています。マイクロバス運行事業では、私は廃止時期を考え、今後のことを考えてほしいと意見しましたが、今後のことを考えるというのは何か代替するなど工夫していただければと思う。どこへ行くにも交通費というのは必要ですので、まったく無料ではなく、協力金のような形で、少額でも住民に負担してもらってもよいと思う。小回りが利くように工夫していただければなと思います。

本村でのスクールバスの事業は非常に評価すべきことだと思う。子どもを持つ親にとっては非常に安心・安全であり、もっとアピールしていただければなと思います。

また、当たり前のように思っている空気や水の安心・安全も広告していただき、人口増に繋がられればなと思います。

(清水委員)

本年度の5事業について整理させていただきました。委員会運営等については、3年目に入り、順調にスムーズになっていると思います。

意見ですが、村にとっての人口減少・過疎を打開する即効的な施策はないのでは、という意見をまず述べさせていただきました。それを打破するには、村民協働提案型事業や棚田夢灯り&収穫祭事業など、村と住民と一緒に汗をかいてむらづくりをすることを着実にしていくことが一番必要なのではないかと思う。

補足的なことですが、村民協働提案型事業では、住民が主体的に取り組む事業については、その事業を促すため一定期間だけ助成する、それ以外に、村と住民が協働で取り組んでいかなければいけない事業については長く助成していけばよいと思う。制度の位置づけをもう一度整理し、再構築してほしいということは、そういった意味なのです。

整理をした上で、村と住民が一体となった取り組みをしなければ、財源的にも厳しくなるでしょう。

(澤井委員長)

事務事業評価調書は改善できる点はしていただきたい。内部評価の仕方にもよるだろうが、

見ていてわかりにくいです。特に目的別経費と性質別経費と財源との関係など説明不足です。

過疎債や起債をどう充てるのかなどを含めての議論が必要なので、そのあたりの資料があった方がいいのかなと思う。全部でなくとも財政的に課題がある事業に対しては、資料を出していただければと思う。

もう一つは事業の全体像を施策体系の中に位置づける視点が弱い感じがします。資源リサイクル推進事業では、村として環境政策をどういった方向に発展させるのかといった議論の中で評価したら良いのではないかと思います。

村民協働提案型事業では、おもしろいなといった事業があるので、うまく支援することでモデル事業を作っていくことがあってもよいのではないかと。村政の中で、協働をどのように位置づけるのか、もう少し議論したほうがよいのではないかと。

棚田夢灯り事業は、拡充するということが1日で行うには物理的に不可能であり、長期間でイベントを行い、その中の1つとし、全体を村民との協働事業として持続して行えばよいのではと思う。奈良市の燈花会では約2週間しており、学生などいろんな方が参加している。奈良の場合、観光客は増加しているが、宿泊数は減少している。宿泊客を増やすため、夜の事業を実施するなど工夫されている。千早赤阪村の場合、そういった位置づけができるかどうか。例えばアート事業にするなど。木津川市ではアートで成功している。作家が実行委員会を作り、役場が支援している。

(澤井委員長)

その他自由にご意見等あればおっしゃってください。

(井関委員)

昨年度の新生児が10人と聞き、30人ほどいると思っていたので、驚いた。子どもが減ると、これから出産しようとする方も、学校や友達の問題もあり、考えようかなとなるのではないかと。色々なことに波及していくのではないだろうか。

(事務局：吉田副村長)

人口を増やそうと思うと、若い世代に移住していただき、産み育てていくことが一番大切であり、子育てにやさしい村といったPRをしていくことも1つの手であると思いますし、人口を増やしていくにはどうしたらよいかを考えていかないといけないと思います。

千早赤阪村はそこまで田舎ではないので、もっとうまくPRすれば人を呼びこめるのだろうと感じています。清水委員がおっしゃるように、特効薬はないが、地道にPR等していき、人に来ていただき、良い村だと知ってもらい定住してもらおう。住んでみて、そこまで不便ではないと感じてもらえるむらづくりをしていかないといけないと思います。

この自然の良さを生かしながら、便利さがあればもっと来ていただけるようになると思います。

(井関委員)

村民が都心に出るには富田林に出て、近鉄線に乗っている。私は南海高野線の千早口駅を利用して、難波まで40分ほどで行くことができ、1時間足らずで都心へ出られる。そのコースを知らない方が多く、富田林へ出ると駐車場があまりなく時間がかかるが、村のエリアにもよるが、南海沿線だと近いので、そういったこともPRすれば身軽に都心に出られることを周知できると思います。

(澤井委員長)

千早赤阪村の幼児教育はこんなことがある等何か見い出せられないですか。

(岡委員)

夢と期待と可能性を秘めたような幼児教育をPRすればなと思います。

(澤井委員長)

子どもを育てるには、自然環境もよいし、交通の便も良いとなれば、可能性はあると思う。

(岡委員)

しばらくの間は、元気で明るくたくましいでよいが、ある程度競争があり、たくましく、やる気があり、社会に打って出るということが次についてきます。新生児が10人だと、幼児教育1クラス10人は少ないので、クラスが作れない。なんとか人を増やさないといけない。クラス編成ができ、来年度になると、クラスが変わるということができなくなってしまいます。

(井関委員)

せめて新生児30人は必要でしょう。

(岡委員)

なによりも職員の人員も少なく、大車輪になって動いても大変でむずかしいですね。

(事務局：森田課長)

若い世代に住んでいただくことは、一番施策で展開していかないといけないところです。村もちゃんとPRできているのかと言ったら、ほとんどできていない。他の自治体についていけるような最低限のことは必要だと思います。

大阪の一番端にあるということで、田舎暮らしをしたいというニーズを持った方には、大阪であることで、田舎ぐらしというようには感じとられていないイメージがあります。

そういったことを逆手に取り、都心へもすぐ行け、自然がたくさんあることを、もっとしっかりPRしていく必要があると思います。

(清水委員)

澤井委員長が色々他自治体の取り組みを紹介していただいていたが、成功しているところには必ず、住民の方で先頭に立ち、熱心に活動する人がおり、それを支える行政側の人間がいます。そういった方が出てこなければ、魅力的な新たな施策が出てこないし、継続が難しい。そういった住民がいるところには、紹介していただいたような事例の施策展開があり、取り組みが広がっている。そういった人が求められていると思います。先ほどの協働事業の充実に繋がっていくと思います。

(澤井委員長)

千早赤阪村にもそういった方がいると思うので、うまく支援していかないといけない。行政も熱心に活動しないと住民もやる気は出ない。

秋田県藤崎町の社会福祉協議会では、研修がしっかりしており、職員が社会福祉士や介護福祉士、精神保健福祉士など3つほどの資格を持っている。その町では引きこもり支援を町単独で行っており、就労にもつなげた。千早赤阪村にもいろいろな可能性があると思います。

2. その他

吉田副村長より3回にわたる外部評価委員会のお礼と、いただいた評価を今後の魅力あるむらづくりに反映させたいと述べられました。

閉会